

この人 に 会いました

湯沢町商工会長

林 敏幸 さん
(下中)

商工会の新会長・林敏幸さんを訪ねました。



新会長としての抱負

湯沢町の地域経済は、昨年のリーマンショックの影響と長期にわたるスキー客の減少により、大変厳しい状況にあります。この現状が続いた場合には、人口流出と高齢化が一度に起こり、益々地域経済が疲弊してまいります。

観光を町の主産業にしており、湯沢町においては、「観光客と人口が増える」施策や活動を今以上に行ってい

く必要があります。湯沢町商工会が「観光客と人口が増える」政策提言と活動ができる組織に変革する必要性を感じております。

プロフィール

昭和31年1月生まれ、53歳です。六日町高校卒業後、東京の大学に進学しました。

そのままだ東京で、診断薬・医薬品の開発製造する会社に就職して、主に製品企画・開発分野の仕事をしておりました。統計学・数学の分野を使ったデータの処理が専門で、そこで出始めのコンピュータに出会い有会社DPLを設立して湯沢に戻り、コンピュータソフトの仕事をしております。

現在は、NPO法人ゆの理事長も兼務し、「湯沢町観光・文化検定」やりゾート

ンションオーナー向け雑誌の「湯沢ぐらし」などで執筆活動も行っております。

こらっしゅい湯沢やキャンドルライブなど地域活性化に向けた取り組みについて

「こらっしゅい湯沢・収穫祭」も今年10周年を迎えます。10周年の集大成として、地域のだれもが楽しめる収穫祭とCO2削減のために、全町内での送迎バスの運行を計画しております。自家用車で祭り会場まで行けない人でもこのバスで祭りに参加して、湯沢の秋を味わってもらえればと思っています。

例年、マイカーで来場されている方も、隣近所お誘いあわせの上、この送迎バスをご利用ください。

さらに、「こらっしゅい湯沢・収穫祭」のPRと駅東口活性化のため、祭り前日に東口商店街を歩行者天国にして「前夜祭」も計画しています。

商工会青年部を中心に行っている「キャンドルライブ」もより集客力を高めるため、内容・規模を見直して冬の大会になるよう計画しております。ご期待ください。

今後、町に望むこと

湯沢町のブランドを高めるため、禁煙条例の制定を考えております。特に温泉街と東口周辺および町の公的な施設では、明確に分煙を推進すべきだと考えています。

禁煙条例というすべて禁煙というイメージですが、喫煙による受動喫煙や吸い殻のゴミを道路に出さないための喫煙ルール作りであります。都市部では、飲食店でも分煙が進んでいます。新幹線や飛行機・電車内では完全禁煙です。いわば禁煙・分煙に慣れた人が観光客です。受け入れる側が無頓着ではならないと思います。

「安心・安全・清潔」で湯沢のブランドイメージを高める観光政策です。

インタビュを終えて

大変お忙しい中をお会いいただき、ありがとうございました。湯沢町の活性化に熱い思いを語っていただき、今後の商工会活動に大きな期待をしたいと思います。

広報常任委員会 森下昌次

田村正幸

編集
後記

絆

「きずな」

「夏、甲子園へ」

夏の甲子園出場をかけた高校球児の熱い戦いが始まった。六日町高校が甲子園に出場し、地域に感動を与えたあの夏の日から14年。今、ヤクルトで活躍する花田投手率いる九州の強豪柳川高校相手に活躍した湯沢町少年野球出身の3選手、岸野浩一(遊撃手・下中)・田村淳(中堅手・栗町)は湯沢町役場、井熊敏弘(右翼手・幅下)は新潟に進出した大手家電販売の新潟店長として、それぞれ新潟の地で活躍している。

15日に初戦を迎える六日町高校には昨年1年生で三塁手に抜擢された南雲亮太君(原)が2年生ながら5番一塁手として甲子園という大きな夢に向かって頑張っている。本人の素質、努力はもとより野球を好きにしてくれた少年野球の指導者、技術を教えてくれた中学校、高校の監督、何よりも理解ある家族の協力支援、そして地域の応援がひとつの絆になって子供達が夢をかなえる支えになる。南雲亮太君には今年の夏、来年と2度のチャンスがある。六日町高校甲子園初出場以来、まもなく15年、節目の年に湯沢で育った子供達が、私たちに元気と明るく爽やかな感動を届けてくれることを願い、応援しようではありませんか。

広報委員 南雲 正

編集

湯沢町議会

広報常任委員会